

# 一歩

## 東京オリンピック

来年は東京オリンピックがあります。オジサンにとって2度目の東京オリンピック(といっても、第1回は生まれたばかりの0歳ですが・・・)です。競技種目の如何に関わらず、大会で選手が素晴らしいプレーや、がんばっている姿をテレビ等で見ると、感動や興奮するものです。



大会終了後のテレビやニュースで「オリンピック選手に内定」などと報じられます。東京オリンピックは来年2020年開催ですが、多くの競技で選手が決まる(内定)のは、今年の大会結果や選考会です。今年の大会は、オリンピック選考も兼ねており、激闘や盛り上がりが見られ、観戦する者にとっても競技の白熱に見所が多くなることでしょう。たいへん楽しみです。

反面、選手は必死なことは容易に想像できます。結果を出し、東京オリンピックの選手選考を通過したい、つまりオリンピック選手に選ばれたいと強く願っている選手はたくさんいます。東京オリンピックが、日本以外で行うオリンピック以上に盛り上がるのは母国開催だからです。日本人なら、母国日本で開催されるオリンピックに出場し、結果を出すことは非常にうれしく、光栄なことです。また、日本全体が、選手やオリンピックを強力にバックアップしてくれるのも母国開催だからです。国民の応援もそうですし、選手の強化費なども母国開催は桁違いに多くなります。有力な選手にとっては、金メダルなどを目指すのはもちろん、オリンピック選手になれるかどうかギリギリと思っている選手は死にものぐるいで最終調整をし、大会に臨むことでしょう。オリンピックに出場して当然と思われている候補選手であっても、そのような必死になっている選手が簡単に勝たせてくれるわけがありません。テレビを見ている



人たちは、これまで勝っていた選手だからまた勝つだろう、オリンピック選手になって素晴らしい結果を出してくれるだろうと、勝手な思い込みがあるかもしれません。先日行われた全日本柔道選手権でも、オリンピック候補と言われていた阿部一二三選手が決勝戦で、延長の末負けました。優勝した選手も「ぜひ勝ってオリンピック選手の権利を勝ち取りたかった」と強い意志をコメントしていました。勝負は予想通りにいかないことが多くあります。最後まで何があるかわからないのです。

## 新潟市内大会

今は4月中旬ですが、春の中体連大会(市内大会)の準備は着々と進んでいます。運動部のみなさんの中には、市内大会を勝ち抜き、上位大会に進みたいと考え、練習に励んでいる人も多いことでしょう。

今年度から、中体連大会で昨年度までと大きく変わったことがあります。昨年度の中体連大会は、「新潟市内大会→新潟地区大会→新潟県大会」となっていますが、今年度は、「新潟市内大会→新潟県大会」となります。新潟市では、新潟地区大会がなくなります。県内には、市だけでなく、町や村もあります。新潟市内大会のような大会を郡市大会と呼びます。全県で中体連大会の見直しが図られ、基本的な考え方は「郡市大会」をなくし、「地区大会」から大会が始まるようになったのです。ですから、新潟市は名称こそ新潟市内大会(正式には、新潟市中学校体育大会)ですが、地区大会レベルと考えた方がいいでしょう。ですから、今年度は新潟市内大会を勝ち抜けば県大会に進めるのですが、それは以前の市内大会と地区大会を勝ち抜くくらいの狭き門になっていると考えなければいけません。

今年度はゴールデンウィークの10連休があります。部活動では、取り組み方の見直し(休日の確保など)もしています。ゴールデンウィークに休みがあり、もっと練習日がほしいと思う人もいるかもしれません。また大形中の3年生のみなさんは、5月16日(木)から18日(土)が修学旅行です。



市内大会は、多くの競技が6月24日(月)・25日(火)に行われます。一部の競技〔陸上競技・サッカー〕は、6月18日(火)・19日(水)に予定されています。あと2ヶ月後ですが、先に述べたように意外と練習日は少なく感じるかもしれません。練習できるときは、必死になって取り組みましょう。

## 今のがんばり、将来への道

部活動でがんばっていて、今回の東京オリンピック2020に選手として出場する大形中学校生はいません。

しかし、オリンピックは、開催前、開催時、開催後と、その国に大きな変化をもたらすきっかけになることが少なくありません。中学3年生のみなさんにとって、2020年度は高校生になっています。高校生として、各国のオリンピック選手が東京以外に合宿地を設け、練習・調整に励んだりします。もしかすると、そういったところでボランティアとして関わることがきっかけで、よりその競技に深く関わるようになるかもしれません。また、選手、競技とは違うところでみなさんの活躍の場が新たにできるかもしれません。英語や中国語などの外国語を話すこと、交流することは、今以上に当たり前になり、海外との交流もいっそう盛んになるであろうと推測できます。若いみなさんは、これから仕事や交友関係で、海外の方と接することから、新たな世界が広がる人もいるかもしれません。

今がんばっていることや、取り組んでいることのうち、何が将来生きてくるかは誰にも予測できません。だから、今自分にできること、やっていることにがむしゃらになり取り組む価値があると思います。

